

2026 年 10 月 19 日

JEPLAN/BRING™、「横浜マラソン 2026」で衣類の資源循環を推進

－ 防寒着回収、再生ポリエステルを使用した参加賞 T シャツ、アップサイクルワークショップの
開催を通じてサステナブルな大会運営に貢献－

株式会社 JEPLAN（代表取締役 執行役員社長：高尾 正樹、以下「JEPLAN」）は、2022 年よりオフィシャルパートナーとして横浜マラソンに協賛しており、2026 年 10 月 25 日（日）に開催される「横浜マラソン 2026」（以下「本大会」）で 5 年目を迎えます。

本大会では、スタート地点での防寒着回収や会場での衣類回収を通じて、資源循環を推進するほか、昨年度に引き続き、プーマジャパン株式会社（以下「プーマジャパン」）と共同で、100%繊維由来の再生ポリエステルを素材の一部に使用した参加賞 T シャツを制作しました。また、今年は初めての試みとして、不要となった布や T シャツヤーン^{*1}を活用したアップサイクルワークショップを開催します。



JEPLAN



本大会は、毎年 3 万人のランナーが参加する大規模な大会であり、サステナブルな大会運営に積極的に取り組んでいます。マラソン大会では、ランナーがスタート直前まで体を温めるために着用していた防寒着がスタート地点に脱ぎ捨てられることが課題となっています。本大会では、この課題の解決に向けて、2023 年から防寒着回収を実施しており、取り組みの継続によりランナーの認知も高まり、昨年は脱ぎ捨てられる防寒着の量が減少しました。

今年は JEPLAN、横浜マラソン、NPO 法人 HpRun^{*2}が協働し、回収チームを編成してスタート地点での防寒着の回収を実施します。また、フィニッシュとなる臨港パークで開催される「横浜マラソンフェスタ」では、JEPLAN ブースにて不要になったスポーツウェアなどの衣類回収も行います。回収した防寒着

や衣類は、BRING のプラットフォームを通じてリユース・リサイクルし、廃棄物の削減と資源循環の両立を図ります。

また、本大会では初の取り組みとして、不要となった布やTシャツヤーンを活用したアップサイクルワークショップを開催します。キーホルダーやブレスレット、タッセルチャームづくりを通じて、廃棄される素材に新たな価値を与えるアップサイクルを体験いただくことで、衣類の循環や資源の有効活用について理解を深める機会を提供します。

今後も JEPLAN グループでは「あらゆるものを循環させる」というミッションの実現に向けて、引き続き国内外のパートナーとの連携を進め、グループ一丸となりサーキュラーエコノミーの牽引に努めてまいります。

*1 不要になったTシャツや生地を細長く裁断し、ひも状に加工した素材

*2 スポーツの振興と社会貢献活動推進のため、HpRunClub の運営や、身近な取り組み方で環境の保全を図るイベントの開催などを行っている学生団体(<https://www.hprun.jp/npohprun>)

■「横浜マラソン 2026」について (<https://yokohamamarathon.jp/>)

主催：横浜マラソン組織委員会（横浜市、神奈川県、公益財団法人横浜市スポーツ協会など）

開催日程：2026 年 10 月 25 日（日）

<種目>

- フルマラソン／42.195km
- ペアリレー／第 1 走者（約 22.7km）、第 2 走者（約 19.5km）
- 湾岸ハイウェイラン／約 20.3km
- みなとみらい 7km ラン／約 7km
- エンジョイラン（車いす、ファミリー、中学生）／約 3km

■「横浜マラソン 2026」との協働内容について

1. スタート地点に残された防寒着の回収

ランナーがスタート地点に残した防寒着（古着）を、JEPLAN、横浜マラソン、NPO 法人 HpRun が協力して回収します。

2. 衣類回収

大会開催前から横浜市内各所および大会当日に実施する「横浜マラソンフェスタ」の JEPLAN ブースにて、不要になった衣類の回収を実施しています。

※開催場所、実施期間、回収対象の詳細は「横浜マラソン 2026」のオフィシャルウェブサイト内の衣類回収に関するお知らせをご確認ください。

3. 繊維由来の再生素材を使用した参加賞 T シャツの制作

本大会の参加賞 T シャツには、100%繊維由来の再生ポリエステルを素材の一部に使用した「BLANK APPAREL™」を採用しています。本大会でも JEPLAN とオフィシャルパートナーのプーマジャパンが協働でオリジナルデザインの T シャツを制作し、資源循環の取り組みをランナーの皆さまに身近に感じていただける機会を提供します。

<Tシャツイメージ>



4. 「アップサイクルワークショップ」の開催

不要となった布やTシャツヤーンなどを材料に、キーホルダー、ブレスレット、タッセルチャームなどの小物づくりを体験できるアップサイクルワークショップを開催します。

捨てられるはずだった素材に新たな価値を生み出すアップサイクルを通じて、衣類の循環や資源の有効活用について身近に考える機会を提供します。

※開催日時、参加方法等の詳細は、[「横浜マラソン 2026 ONLINE EXPO」JEPLAN ページ内](#)で公開しております。

■BLANK APPAREL™について (<https://blankapparel.jp/>)

ポリエステルをサステナブルに。工場の繊維くずや古着をリサイクルして作られた再生ポリエステル「BRING Material™」を素材の一部に使用した、アパレルやユニフォーム、グッズ、ノベルティ制作向けのプリント用ボディブランド。BRING の回収プラットフォームで回収し、様々な資源に循環させることができます。

■BRING™ (<https://bring.org/pages/recycle>)

BRING™は様々なブランドや小売店等と協力して、消費者の使用済みの服や繊維製品を回収し、地球の資源に循環させるサービスを運営しています。また、多岐にわたるパートナーと連携することで、可能な限り行き先の見えるリユース、何になるかが分かるリサイクルを行っています。 みんなの思い出が詰まった服や繊維製品を、消費者が納得できる方法で循環させる。それが BRING の目指すサーキュラーエコノミーです。

BRING 回収を実施している拠点は全国 2,867 箇所：<https://bring.org/pages/recycle>
(2026 年 10 月 1 日時点、スポット開催含む)

■株式会社 JEPLAN (<https://www.jeplan.co.jp>)

代表者：代表取締役 執行役員社長 高尾 正樹

設立：2007 年 1 月

所在地：神奈川県川崎市

主な事業内容：PET ケミカルリサイクル技術関連事業（対象：PET ボトル・ポリエステル）など

JEPLAN グループは「あらゆるものを循環させる」をミッションに掲げ、サーキュラーエコノミーの実現を目指しています。廃 PET (PET ボトル、ポリエステル繊維等) を対象に、独自の PET ケミカルリサイクル技術を用いて分子レベルに分解し、不純物を除去することで、石油由来と同等品質の再生素材に生まれ変わらせています。この独自技術を用いて、リサイクルに取り組むことで、限りある資源の循環を実現し、CO₂の排出量削減にも寄与しています。なお、JEPLAN グループはペットリファインテクノロジー株式会社（神奈川県川崎市）と北九州響灘工場（福岡県北九州市）の 2 拠点で PET ケミカルリサイクルプラントを運営しており、国内外への技術ライセンス事業も推進しています。